

日本多施設共同コーホート研究 (J-MICC 研究)
平成 29 年度第 2 回全体会議 議事録

日 時：平成 29 年 11 月 21 日 (火) 11:40 ～ 17:30

場 所：名古屋大学医学部 基礎研究棟 3 階 講義室 1 (名古屋市昭和区鶴舞町 65)

出席者 (敬称略)：

三上春夫、成松宏人、栗木清典、松尾恵太郎、玉井裕也 (鈴木貞夫 代理)、喜多義邦、高嶋直敬 (三浦克之 代理)、渡邊能行、有澤孝吉、田中恵太郎、嶽崎俊郎、古庄憲浩、永瀬浩喜、江口英孝、山田宏哉 (橋本修二 代理)、今枝奈保美、後藤千穂、井上真奈美、寶澤篤、清水厚志、今田恒夫、原田成、中朽昌弘、中村洋子、片山佳代子、遠藤香、伊藤秀美、尾瀬功、春日井由美子、渡邊美貴、市川麻理、中村保幸、鈴木春満、尾崎悦子、小山晃英、上村浩一、釜野桜子、藤岡美穂、岩崎夕貴、指宿りえ、下敷領一平、池崎裕昭、須藤洋一、岩澤聡子、近藤高明、藤井亮輔、菅原妙、森田えみ

中央事務局

(若井建志、内藤真理子、菱田朝陽、川合紗世、岡田理恵子、田村高志、篠壁多恵、門松由佳、塚本峰子、丸山健太、奥山教子、伊藤妙子、服部秀美)

以上 62 名

主任研究者挨拶

主任研究者 (若井) より、J-MICC 研究の開始から 10 年余りが経過し、研究実施予定期間の約 3 分の 2 を迎えている旨が伝えられた。J-MICC 研究全体の現在の平均追跡期間は 6.1 年であり、コーホート研究としての分析実現に向けて、精度の高い追跡調査を進める必要性が述べられた。

1. 倫理審査実施状況について (資料 1)

主任研究者より、J-MICC 研究全体の倫理審査の進捗状況 (主任研究者・中央事務局長の交代、コーホート研究実施グループなどの研究組織構成員の変更、札幌 J-MICC 研究の中止に伴う第 14 回改定) が報告された。また食事記録データの追加解析による食物摂取頻度調査票の妥当性・再現性検討の研究計画が倫理審査中であることが報告された。さらに昨年度の業務日程および今年度の業務日程 (神奈川県立がんセンターでのベースライン本調査開始、同地区でのサイトビジット、追跡調査ワーキンググループ会議、食事調査ワーキンググループ会議、循環器疾患・糖尿病グループ会議) について報告された。

2. 研究進捗状況について (資料 2)

主任研究者より、ベースライン調査および第二次調査について、平成 29 年 11 月 1 日集計の研究協力の状況 (ベースライン調査は同意者数 75,551 名、連合を含め 102,061 名、第二次調査は同意者数 42,724 名、連合含め 57,380 名) [同意率 64.1%] が報告された。加えて中央事務局保管の生体試料数について、血清、 Buffy または DNA の内訳が報告された (Buffy または DNA 93,787 名分)。また追跡調査の進捗状況について、詳細が報告され (追跡対象数は 101,277 名)、転帰不明者の調査があらためて依頼された。

3. ベースラインデータによる横断研究について（資料3）

中央事務局長（内藤）より、ベースラインデータ（生体試料を使用しないもの）の配布が完了したこと、ベースラインデータによる横断研究テーマ募集を実施し、30件の応募があったことが報告された。平成28年度第2回運営委員会までに決定したルールに基づいて、申請者間の研究テーマの調整が現在進められており、本年中に採択済み研究テーマ一覧を示す予定であることが説明された。

4. 追跡調査について（資料4）

中央事務局（岡田）より、今年度の死亡小票閲覧および追跡調査データ提出に伴う依頼がなされた。①紙媒体と電子データの両方で提出すること、②死亡・転出、がん罹患、検体情報ファイルのデータは別々のエクセルファイルおよびCD-Rで提出する、などがあらためて説明された。また来年度の死亡小票閲覧予定が示され、今年度の死亡・転出データの提出期限が確認された。3年以上前に遡って、死亡小票閲覧申請ができないため、注意するよう伝えられた。また「転出・職権消除一覧表」で、異動理由としてその他の理由「3」が追加され、その理由を欄外に記載する旨が再確認された。さらに、がん罹患登録票に重複がんの欄が新たに設けられたことが述べられ、該当症例については登録票に記載し、電子データで提出することが依頼された。

5. 第二次調査のデータ入力、生体試料提出について（資料5）

主任研究者より、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）門脇班での糖尿病罹患同定に必要なこともあり、あらためて第二次調査のデータ提出が依頼された。また健診データの提出に係る詳細（ベースライン調査との整合性を取るためHbA1cはJDS値とする、第二次調査では血清LDLコレステロール値も収集するなど）について、あらためて説明された。

6. 循環器疾患・糖尿病グループからの報告（資料6）

滋賀医科大学の高嶋先生より、これまでの追跡調査によって確認された循環器疾患の新規罹患患者数が報告され、今後の縦断解析における研究展開や展望が述べられた。

徳島大学の有澤先生より、これまでの追跡調査によって確認された糖尿病の有病者数、新規罹患患者数や糖尿病有病・罹患の定義について説明がなされた。糖尿病リスク予測モデルの妥当性研究への追跡調査に基づくデータの提供（AMED研究費による共同研究：糖尿病の遺伝・環境因子の包括的解析から日本発次世代型精密医療を実現するプロジェクト）などが説明された。

7. データ生体試料保管の災害対策（資料7）

主任研究者より、生体試料および調査データの災害に備えた保管体制が報告された。中

中央事務局のフリーザー室には止水版を設置しており、液化 CO2 によるフリーザーのバックアップ増設、冷却用ドライアイスの備蓄を行なっていること、バフィーコートについては解凍しても比較的安定な DNA への抽出を行っていることが報告された。また名古屋大学担当の調査地区の生体試料については、山形大学にて分散保管していることが説明された。データについても連結可能匿名化ではあるものの、容易に個人が特定できない状態にして山形大学で保管し、年 1 回更新していることがあらためて説明された。バフィーコートより新たに抽出された大幸地区の DNA について、今年度中に山形大学へ移送予定であることが説明された。また中央事務局での危機管理マニュアル改定が報告された（フリーザー故障時における生体試料の別フリーザーへの移動など）。

8. 論文作成・学会発表の進捗状況（論文発表・学会発表の際の注意点含む）（資料 8）

中央事務局（川合）より、J-MICC研究のデータを用いた論文・学会発表数について報告があった。J-MICC全体研究による欧文論文は34編、うちcandidate approachによる横断研究によるものは32編であった。独自研究について、論文・学会発表リストに脱落その他修正がないかを確認することが、コーホート研究実施グループにあらためて依頼された。また論文発表の際、「コホート・生体試料支援プラットフォーム」など関連研究費の名称を記載するようにあらためて要請された。

9. 共同研究・研究支援について（資料 9）

中央事務局長より、J-MICC全体研究と外部共同研究者との共同研究の枠組が説明された。現在進行中や予定を合わせてオーダーメイド医療の実現プログラムとの共同研究48件、GWAS用タイピングデータの対照としての提供1件、candidate approachによる横断研究の外部研究者公募3件、国際コンソーシアムおよび国内プール解析・メタ解析への参加3件、がん早期診断マーカー検証の公募状況（審査中）、AMED研究費による共同研究1件が報告された。

10. GWAS横断研究について（資料 10）

中央事務局長より、GWAS横断研究の進捗状況（受理1件、投稿中3件）および第二次テーマ募集とその採択状況（採択7件）について報告された。また本年12月に第三次テーマ募集を実施する予定が述べられた。また主任研究者より、愛知県がんセンター病院疫学研究との共同研究による再現性検討を希望する場合は、中央事務局へ個別に申し出るものとすることが述べられた。

11. 理研で遺伝子型を決定しての横断研究の進捗について（資料なし）

主任研究者より、理研での遺伝子型決定データ（2010年測定）を用いたcandidate approachによる横断研究の進捗状況が示され、J-MICC研究グループ内からは32編の論文が発表され

たことが報告された。また外部からの共同研究者・研究テーマ公募については3件の応募があり、全て採択されていることが説明された（1件データ提供済、2件データ提供準備中）。

12. ホームページについて（資料12）

中央事務局長より、J-MICC研究ホームページ内に研究者向けシンポジウム「コホート・生体試料支援プラットフォームによる研究支援とその成果」の案内が掲載されたこと、「コホート・生体試料支援プラットフォーム」ホームページ内に同シンポジウムの参加登録フォームが新たに設置されたことが報告された。あわせて平成30年3月4日に名古屋市内で開催予定の市民公開講座の概要が説明された。またがん早期診断マーカー精度検証支援の第1回公募（肺腺癌・血清または血漿）を「コホート・生体試料支援プラットフォーム」のホームページを通じて行ったことが報告された。

13. 慶應義塾大学 鶴岡メタボロームコホートの研究について（資料13）

慶應義塾大学・鶴岡メタボロームコホート研究の原田先生より、同研究の脳・心血管疾患発症調査の進捗やメタボローム解析計画、同研究データの精度管理などについて説明があり、今後の研究展開と展望について質疑がなされた。

14. 山形大学 山形県コホート研究について（資料14）

山形県コホート研究の今田先生より、2万人規模の分子疫学コホートである同研究のベースライン調査、第二次調査、追跡調査の概要および進捗状況について説明され、質疑がなされた。

15. 東北大学 東北メディカル・メガバンクの研究について（資料15、16）

東北メディカル・メガバンクの寶澤先生より、8万人規模の分子疫学コホートである地域住民コホートのベースライン調査、第二次調査、追跡調査の概要と進捗状況（とくに詳細二次調査）について説明があり、質疑がなされた。またバイオバンクとしての東北メディカル・メガバンクの役割や現在のデータの分譲・公開状況について説明された。

16. いわて東北メディカル・メガバンクの研究（共同研究報告含めて）について（資料15、16）

岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンクの清水先生より、同研究による日本人基準ゲノム配列の拡充、エピゲノム解析の進捗、多層オミックス解析とリファレンスデータベースの公開、J-MICC GWAS横断研究解析支援の進捗、統合・知識データベースの進捗などについて説明があり、質疑がなされた。

17. 食物摂取頻度調査票による栄養素摂取量推定について（資料17）

至学館大学の今枝先生より、J-MICC研究および連携コホート実施地区で使用している食物摂取頻度調査票（名古屋市立大学短縮版FFQ）の妥当性検討結果について報告がなされ

た。同調査票開発時に作成されたオリジナルの回帰式のJ-MICC研究・連携コホート実施地区の食事記録調査（12日間）に基づく妥当性に加えて、愛知県での食事記録調査（3日間）に基づく、オリジナル回帰式およびJ-MICC研究・連携コホート実施地区の食事記録調査で作成された新回帰式の妥当性検討結果が示された。その結果、J-MICC研究および連携コホート実施地区の食事記録調査で作成された新回帰式は、従来のオリジナルの回帰式の妥当性を検討した集団（愛知県）においても遜色のない妥当性が認められた。

食事調査ワーキンググループ会議では、これまでの研究との整合性やノウハウの蓄積などを鑑み、オリジナルの回帰式が対象としている栄養素については当面、その回帰式を用いることとしたことが報告された。J-MICC研究および連携コホート実施地区の食事記録調査で作成された新回帰式については、今後もモンテカルロ法など別の方法を用いた検討を継続し、オリジナル回帰式よりも良好な妥当性が得られた場合に扱いを考慮することとした。

18. コーホート研究実施グループの調査進捗状況（資料18）

各コーホート研究実施グループより、1. 第二次調査の実施状況または準備状況（神奈川県はベースライン調査）、2. 追跡調査の実施状況、3. GWAS横断研究の進捗状況、4. 独自研究の進捗状況、5. 生体試料、データの提供や共同研究の実績、6. 書類・データ・生体試料保管の災害対策、7. 研究発表、研究支援活動の展望、8. 広報活動、9. その他について発表があり、それぞれ質疑がなされた。

19. その他

研究モニタリング委員会委員長の井上先生より、日本で最初に開始された大規模ゲノムコーホート研究であるJ-MICC研究への期待と、追跡調査実施への激励が寄せられた。